

村 上 寛 也	トレーラーハウスの室内環境の向上と電力の自立化を目指した実測及びシミュレーション評価に関する研究	岩 井 一 博
山 口 美 空	安曇野市域における明治期の農家（主屋）の規模と屋根葺材－安曇野市文書館所蔵の建物台帳を用いた分析－	梅干野成央
山 田 雄 介	現代の茅場利用にみる茅葺きの持続可能性に関する考察－富山県南砺市と広島県山県郡北広島町を対象として－	土 本 俊 和
山田彬太郎	中学校校舎を対象としたエネルギーと熱的快適性の段階的最適化	中 谷 岳 史
山 本 拓 也	広島県北広島町芸北地域における民家と里山の関係	土 本 俊 和
和 田 聡 一	小規模住宅の可能性を求めて	羽 藤 広 輔

（授与年月 2024. 3） 信州大学大学院総合理工学研究科〔生命医工学専攻〕

氏名	論文題目	指導教員
生命工学分野		
阿 部 佑 介	<i>Pestalotiopsis</i> sp. AN-7由来PesGEの基質特異性とX線結晶構造解析	水 野 正 浩
奥 田 智 佳	<i>Irpex lacteus</i> NK-1が生産するキチナーゼの異種発現系の構築及び酵素学的諸性質の解明	水 野 正 浩
白 田 伊 吹	中温中高压処理がリング由来の可溶性ポリフェノールオキシダーゼに与える影響	天 野 良 彦
丹 和 磨	化学修飾による機能性バクテリアセルロース材料の創生と機能評価	天 野 良 彦
永 田 雄 介	好きな曲と快感が示唆される曲を聴取した際の感情の客観的評価に関する研究	阿 部 誠
廣 永 千 華	シミュレーション波形を用いた心電図のノイズが心室遅延電位検出に与える影響に関する研究	阿 部 誠
福 田 紘 子	pH環境変化に対する細菌細胞のロバストネスを支える機構の解明	片 岡 正 和
山 本 純 子	接合伝達性プラスミドRP4を用いた大腸菌からの異種菌への遺伝子導入	片 岡 正 和
依 田 健 人	増殖曲線をもとにした放線菌 <i>Streptomyces</i> 属間における染色体移行頻度の向上	片 岡 正 和

2. 博士論文

（課程博士）

講座名	氏名	博士論文名	主指導教員	授与年月日
総合工学系研究科				
システム開発工学専攻				
ナノカーボン先端材料工学部門	藤 森 友 之	パワーデバイス向け無電解Ni-P合金めっき膜の高温加熱によるクラックの抑制に関する研究	新 井 進	2023. 9. 30

総合医理工学研究科

総合理工学専攻

エネルギー・システム工学分野

エネルギー材料・デバイス工学ユニット	各 務 祐 気	液相シリコンを用いたSiC多結晶コーティングに関する研究	太 子 敏 則	2024. 3. 20
機械システム工学ユニット	加 藤 輝 雄	Nonlinear modeling of hydraulic cylinder dynamics via low frequency techniques (低周波数技法による油圧シリンダダイナミクスの非線形モデリング)	酒 井 悟	2024. 3. 20
情報通信システム工学ユニット	熊 谷 俊 樹	高開口数球面の形状測定のための合成開口干渉縞解析法に関する研究	和 崎 克 己	2024. 3. 20
エネルギー材料・デバイス工学ユニット	志 村 和 大	高周波DC-DCコンバータ用インダクタ・トランスの銅損低減のための磁束経路制御に関する研究	水 野 勉	2024. 3. 20
エネルギー材料・デバイス工学ユニット	長 田 勇 樹	高選択的水透過性SWCNT膜の開発	林 卓 哉	2024. 3. 20
情報通信システム工学ユニット	MUNIQUE COSTA THALITA	A study on utilization of deep learning in digital pathology: glomeruli and white blood cell classification (デジタル病理学における深層学習の利用に関する研究：糸球体および白血球の分類)	田 中 清	2024. 3. 20

生命医工学専攻

生命工学分野

3年制コース	山 崎 慎 也	中温中高压処理におけるポリフェノールオキシダーゼ活性制御手法の開発	天 野 良 彦	2024. 3. 20
--------	---------	-----------------------------------	---------	-------------

(論文博士)

講座名	氏名	博士論文名	主指導教員	授与年月日
総合医理工学研究科				
総合理工学専攻				
数理・社会システム科学分野				
建築環境システム工学ユニット	高 根 裕 貴	遮音性能を考慮した乾式二重床に組み込んだ潜熱蓄熱材併用型床暖房システムのCO ₂ 削減手法に関する研究	高 村 秀 紀	2024. 3. 20